

## J06b SU UMa型矮新星 V585Lyr、NSV907 の可視測光観測

杉保圭 (京都大学)、植村誠 (広島大学)、石岡涼子 (国立天文台)、今田明、加藤太一、野上大作 (京都大学)、前原裕之 (東京大学)、田辺健茲 (岡山理科大)

我々 VSNET Collaboration Team は V585Lyr(RA 19:13:58.43 Dec +40:44:10.3) および NSV 907(RA 02:44:57.78 Dec +27:31:09.3) の CCD 可視測光観測を行い、両天体が SU UMa 型の矮新星であることを明らかにしたので報告をする。

V585Lyr は静穏時は 21 等程度の天体であるが、2003 年の 9 月 15 日に 15 等まで増光していることが VSNET に報告され、測光観測を行った結果、0.0610(8) 日の superhump 周期を検出した。この周期は SU UMa 型矮新星の中で短い部類に入る。また、急速減光期後に再増光が観測されたが、この現象は SU UMa 型矮新星の中で特異な振る舞いを示す WZ Sge 型矮新星に多く見られ、ほとんどの SU UMa 型矮新星では観測されない。これらを総合して判断すると、V585 Lyr は SU UMa 型矮新星と WZ Sge 型矮新星との中間的な性質を持つ可能性が考えられる。

一方、NSV 907 は静穏時 18 等の天体で、2004 年 11 月 2 日に 12.5 等まで増光が報告された。増光中に CCD 観測を行った結果、superhump を検出し、その周期は 0.07209(2) 日であった。また、増光中の superhump 周期の変動を調べた結果、多くの SU UMa 型矮新星で見られるような単調減少の傾向は見られず、ほとんど周期変動をしていないことを確認した。

今回の講演では、V585 Lyr の WZ Sge 型矮新星との類似性および NSV 907 の superhump 周期変動について、過去の観測結果と近年提唱されたモデル (Uemura et al. 2005) と比較して議論する。